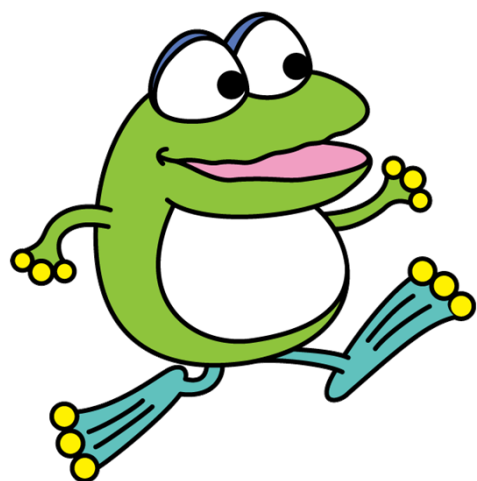


災害時の応急給水について協力関係を構築します



横浜市水道局キャラクター
はまピョン

2023年1月13日
市長定例記者会見
説明資料

災害時における飲料水確保

1人9ℓ以上

自助

市民自ら
備える

共助

地域の
助け合い

公助

水道施設の
耐震化や関係
機関との連携

災害時給水所 災害などで断水したときに、誰でも飲料水を得られる場所

災害時の飲料水確保の方法		
飲料水確保の場所	目印	施設の種類など
ご家庭・企業	—	<p>備蓄している飲料水</p>
<p>災害時給水所 (地域防災拠点など)</p> <p>544箇所 (R4年3月末時点)</p>	 <p>標識</p>	<p>●災害用地下給水タンク 134基</p> 
	 <p>のぼり</p>	<p>●配水池 22カ所</p> 
		<p>●緊急給水栓 358基</p> 
		<p>給水車</p> 
	 <p>看板</p>	<p>●耐震給水栓 30カ所</p> 

応急給水の担い手確保＝市としての課題

大規模災害時は、飲料水確保のため、水道局職員や地域の皆さまに加え、他都市や民間事業者などより多くの方の協力が必要

これまでも横浜市管工事協同組合と災害時給水所開設について協力関係を構築していたが、開設後の運営の担い手確保が課題

総合警備保障株式会社(ALSOK)と横浜市は、「災害時給水所の運営協力に関する協定」を締結
(1/17に協定締結式を実施予定)



協定締結による協力内容

①災害時



災害時給水所で給水の順番を待つイメージ

- ▶ 災害時給水所開設後の人員整理等をはじめとした運営上の保安措置
- ▶ 災害時給水所における応急給水の補助
- ▶ 夜間等における災害時給水所の警備など

②平時



応急給水訓練のイメージ

- ▶ 応急給水に関する訓練の参加
- ▶ 災害時給水所の運営協力に必要な技術力や知識向上に係る情報交換
- ▶ 連絡体制の確認 など

災害時給水所(MM21地区)



MM21地区では、大規模災害時多くの避難者が集まることが想定されるため、大規模な災害用地下給水タンクを整備

- 高島中央公園(1,500m³)
- 臨港パーク (700m³)
- カップヌードルミュージアムパーク (1,300m³)
- ヨーヨー広場(1,000m³)

2t給水車2,250台分、
50万人3日分の必要量に相当

※地域防災拠点に設置されている標準的な容量は60m³

※()は、タンクの容量を示す

災害時給水所(災害用地下給水タンク:高島中央公園)



【平成16年度設置当時】



【令和4年11月】
災害時給水所開設中のイメージ

発災時に多くの人が集まることが想定される
『みなとみらい21地区における飲料水確保』の取組として、
災害時給水所開設後の人員整理などをALSOKが担う

協定締結により期待する効果等

- 平時における応急給水訓練の実施

- ALSOKとの顔の見える関係づくり



- 災害時における応急給水活動の担い手を確保



- ALSOKと横浜市で連携して応急給水を実施



- みなとみらい21地区での確実な飲料水の確保

横浜市からのお願い

☑ ご自宅や職場で

『1人1日3ℓ、最低3日分で9ℓ以上の飲料水の備蓄』

☑ 近くの災害時給水所の場所を確認しましょう

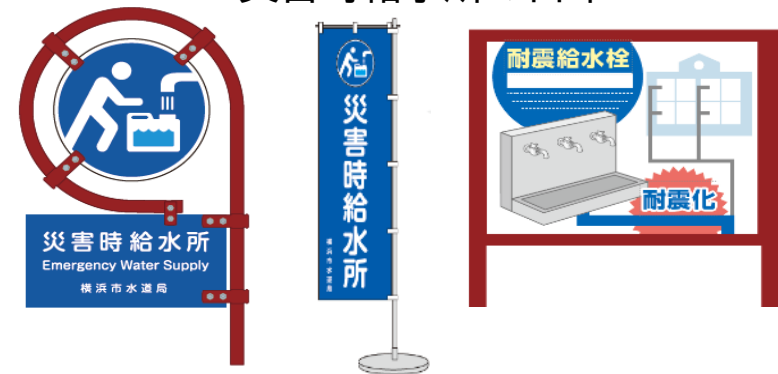
⇒ 区役所や水道事務所で配付している『災害時給水マップ』

や 横浜市行政地図情報提供システム内『はまピョンマップ』

で確認できます。

横浜市 災害時給水所

災害時給水所の目印



⇒ 災害時給水所で水を受け取る際は、**容器をご用意**いただくとともに、

水を運ぶリュックや台車なども用意しましょう。